

# 市議会だより

## 市議会第2回定例会

令和元年市議会第2回定例会を、6月4日から25日までの22日間、開催しました。

この定例会では、条例関係13件、一般議案4件、補正予算6件、報告4件、議員提案3件、その他1件の、合わせて31件を審議しました。審議日程は次のとおりでした。

▼6月4日の本会議1日目は、会期を22日間と決めた後、議案の説明が行われました。

▼13日の本会議2日目は、議案に対する質疑を行い、関市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正や、追加上程された工事請負契約の締結（刃物ミュージアム回廊整備（建築・外構）工事）など10件を可決しました。

また、令和元年度関市一般会計補正予算（第3号）など13件をそれぞれ所管の各常任委員会に付託しました。

その後、代表質問と一般質問を行い、通告者のうち4人が、当局の姿勢や方針

について質問を行いました。

▼14日の本会議3日目は、5人が一般質問を行いました。

▼17日の本会議4日目は、3人が一般質問を行いました。

▼18日～20日は各常任委員会で付託案件の審査を行いました。

▼25日の本会議5日目は、各常任委員長から付託案件の委員会審査結果の報告が行われ、採決の結果、付託されたすべての議案を承認・可決しました。

次に、議員提案の意見書3件を審議し、2件を可決し、1件を否決しました。また、関市議会総務厚生委員会及び建設環境委員会の閉会中の継続調査を承認し、今定例会に付議された案件をすべて議了し、閉会しました。

### 代表・一般質問

#### 高齢者在宅福祉事業

**質問** 在宅介護の負担を減らすための施策は

**答弁** 市では、高齢者の在宅福祉サービスの充実を図るため、今年度、緊急通報システム事業の拡充と新規事業の高齢者等見守りシール交付事業を開始します。

これまでの緊急通報システム事業では、ひとり暮らしの高齢者などサービス利用者が急病などの場合に、通報装置または無線ペンダントの非常ボタンを押すと、消防署に通報できるというサービスでした。今年度からは、相談ボタンを押すと、受信センターに通報でき、保健師もしくは看護師が相談内容にアドバイスを行うサービスや、本人の希望に応じて概ね月1回、安否確認の電話が入る「お元氣見守りコール」サービスを追加しました。

また、新規事業としては、高齢者等見守りシール交付事業を7月から開始します。この事業は、認知症で行方が分からなくなる可能性がある方を家族が登録し、高齢者の方の衣服や持ち物にバーコードの付いた見守りシールを貼っておくことで、保護されたときにスマートフォンでバーコードを読み取ると、速やかに身元確認ができるものです。

今後も、介護者の負担を軽減することができる施策を考えていきたいと考えています。

#### ビジネスプラス展

**質問** 企業間取引（B to B）への効果は

**答弁** ビジネスプラス展の開催による企業間取引（B to B）の状況については、出展企業へのアンケート調査により分析しています。昨年度のビジネスプラス展では、83社の出展企業と11社のバイヤー企業の参加があり、27事業所で68件の商談に結び付いています。この商談により、業務提携に至ったケースは、3事業者で4件、契約に至ったケースは12件あり、「ビジネスプラス展の終了後においても市内の事業所から営業があった」、「自社製品を異業種の方から想定していない使い方の提案を受けた」などの意見をいただいています。

また、製品のセールスや労働力の確保など出展企業が設定した目標に対する達成度は、「目標どおり」、「目標を上回った」と回答された企業が約7割で、6割を超える企業から、また参加したいとの回答がありました。

このように、ビジネスプラス展は、ビジネスマッチングのみならず、企業の魅力紹介、労働力の確保など、企業が様々な目的で参加し、この目的を果たし、満足度をいただいているものと考えています。

## 小瀬鵜飼

**質問** 今年度の取組と将来の課題は

**答弁** 小瀬鵜飼の運営事業者である関遊船株式会社には、岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を活用し、今年度、18人乗りの掘りごたつ式観覧船を導入し、お客様の満足度を高めていきたいと考えています。また、鵜飼乗船客の食事メニューを充実するため、市内フランス料理店と連携して洋風弁当の販売を始められたことで、これまで取り込めなかった若年層や女性の鵜飼観覧客数の増加に繋がるよう期待しています。PR事業では、SNSを活用した情報発信を継続的に行うとともに、5月には関鍛冶伝承館における古式日本刀鍛錬一般公開と併せて、鵜匠による鵜飼の実演などを実施し、多くの観覧者でにぎわいました。7月下旬には、名古屋市のオアシス21において、鵜飼の出張実演を行う予定です。

遊船事業の継続には、新規乗船客の獲得、リピーターの確保など乗船客数の維持が重要ですが、運営面では、鵜舟や観覧船を操作する船頭の高齢化が課題となっています。将来に向けて、新たな船頭の育成が小瀬鵜飼の存続に必要不可欠であるため、関遊船株式会社に対し、その育成に係る助成金を交付して支援していきたいと考えています。

## 子どもの交通安全対策

**質問** 通学路の安全確保は

**答弁** 市では、小中学校の通学路の安全対策を効果的に実施するため、教育関係・公安関係・道路管理者で構成する関市通学路安全対策協議会において、安全対策について協議しています。また、より効果的に安全対策を実施するため、平成26年11月に「関市通学路交通安全プログラム」を策定し、危険箇所対策を行っています。

関市通学路交通安全プログラムでは、平成29年度までの対策予定箇所100カ所に、平成30年度の計画見直しにより新たに27カ所を加え、計127カ所を対策予定箇所として公表をしており、このうち、昨年度までに87カ所の対策が完了しています。

今後は、関市通学路安全対策協議会に、保育園関係者も交えて安全対策について協議し、関係機関と連携して、総合的に子どもの安全対策を行っていく必要があると考えています。

また、市では、市道の改良、補修、安全対策などについて、来年度からの3カ年で集中的に実施すべきものを取りまとめた計画を本年度中に策定する予定であり、この計画に関市通学路安全対策協議会で検討した結果を反映していきます。

## 通学路の危険なブロック塀

**質問** 調査の進捗、今後の対応は

**答弁** 市では、昨年より学校敷地から約500メートル以内の通学路を重点対象として、ブロック塀などの点検調査および安全対策の周知・啓発を実施しています。本年5月末時点で、関地域の小学校区（11校区）の調査を終えており、10月までには、洞戸、板取、武芸川、武儀上之保地域の小学校区（8校区）の調査を実施する予定です。

これまでの調査では、調査対象のブロック塀などは202件で、このうち161件が建築基準法の基準外であるか、または経年劣化による危険性があると考えています。

今後は、残りの8校区の調査が終了次第、再度1回目の調査結果を基に危険の可能性があると判定したものについて巡回し、改修状況を把握していきたいと考えています。

また、危険の可能性があると判定したブロック塀などの所有者へは、巡回時に再訪問し、安全対策の啓発をしていきたいと考えています。

## 公共交通

**質問** 運行状況と今後の課題は

**答弁** 市内を巡回するバス路線は、買い物循環線と市街地病院循環線、わかかさ・小金田線、わかかさ・千足線の4路線を定時定路線で運行しています。また、デマンドバスは、富野地区、田原地区、迫間地区、向山地区において予約のあった乗降所から目的地付近の乗降所までをワゴン車にて乗合で運行しています。なお、デマンドタクシーは、瀬尻・広見地区と下有知地区においてデマンドバスと同様に予約乗降所から目的地付近の乗降所までをタクシーにて乗合で運行しています。

人口減少・少子高齢化が深刻化する中、限られた予算の中で持続可能な公共交通の運営を行っていく必要があると考えています。市民の方からは、バス停や乗降所の新設、便数の増、近隣市町への移動運行形態をデマンドタクシーに変更してほしいなどの多くの要望が寄せられており、公共交通の効率的・効果的な運用をしながら、こうした要望にどう応えていくかが今後の課題と考えています。

## 森林資源

**質問** 活用状況と間伐材の管理体制は

**答弁** 主伐や間伐で搬出された木材は、建築用資材や合板のほか、約7割の木材は粉碎、チップ化され、バイオマス発電燃料やパルプの原料として使用され

ています。また、関市は県と郡上市などの6市町村と合同で、2020年東京オリンピック・パラリンピック選手村のビレッジプラザに市有林の木材を提供し、関市産材のPRをしています。

また、間伐方法については、10年ほど前までは、搬出できない木材は現場に残したままにする切捨て間伐が主流でしたが、森林作業道の整備や高性能林業機械などの導入や技術力の向上により、現在は、切り倒した木材をできるだけ持ち出して利用する間伐に切り替わっています。これにより、間伐材の活用促進を図っていきたくと考えています。また、森林内から木材を搬出することは、豪雨時の放置間伐材の流出に起因する災害の軽減につながるものと考えています。

## 市制70周年・合併15周年

### 質問 記念式典・記念事業の予定は

**【答弁】** 本市は令和2年に、昭和25年の市制施行から70周年、平成17年の市町村合併から15周年という大きな節目の年を迎えます。

記念式典については、市制記念日の令和2年10月15日を行う予定で、市制70周年記念特別感謝状の贈呈、市政功労者表彰などに合わせ、催し物として記念コンサートもしくは記念講演を行うことで調

整しています。

記念事業については、検討段階ですが、大相撲関場所などを開催できるよう調整しています。また、本市に関係する文化人を招へいするイベントや市民マーケットなど、多くの市民の皆さんに参加いただけるような、そして、あらためて関市への愛着と誇りを感じていただけるような記念事業を実施します。さらに、合併15周年の記念の年であることから、これらの記念事業を市中心部だけではなく、旧町村の各地域で実施することも検討しています。

## 片倉グラウンド

### 質問 排水対策は

**【答弁】** 片倉グラウンドは、雨天後のグラウンドや駐車場の状態が悪いことや、防球ネットが老朽化していたことなど利用者にご迷惑をおかけしていたため、排水工事や防球ネットの張替え、駐車場などの整備を行い、本年3月に完成しました。排水対策としては、グラウンドに改良剤を加えるクレイ舗装を行うことで雨水などが流れやすくなるようにし、グラウンドに勾配をつけて雨水などがグラウンド横の水路に流れるよう改良を行いました。しかし、この排水改良によって、流量が増え、既設水路の排水能力を超え

てしまい、雨が降る度に排水路があふれる状態となってしまいました。今後、地元と協議してグラウンド内の排水能力を高める工事を進めたいと考えています。また、グラウンド周辺には防草シートを敷いていますが、現在、雨水がシート下に流れ込み、砂が側溝に流れ込む状態となつているため、排水の改良工事とセットで対策したいと考えています。

## 豪雨災害対策

### 質問 今年度の市の対応は

**【答弁】** 今年度は、最重要施策として防災・減災対策を掲げています。

ハード対策としては、津保川流域において、県が実施する浸水対策重点地域緊急事業にあわせて、指定避難所の富野小学校、武儀西小学校、津保川中学校と、福祉避難所の武儀老人福祉センターの4施設について、施設の周辺を囲むようにコンクリート壁などを設置し、浸水被害を軽減する対策を進めています。

主なソフト対策として、市民一人ひとりが安全な避難を行うための「災害避難カードの作成事業」や、市民の防災意識の向上、防災知識の習得を促すための「せき市民防災フェア」などを実施します。また、災害時の情報を確実に伝達するため「あんしんメール」の機能向上を図り、

ファクス、SNSのラインおよび市のホームページに同時配信される機能を追加します。

ハード・ソフトの両面から防災・減災対策事業を効果的に進め、災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。

## ふるさと納税

### 質問 ルール改正による市の対応は

**【答弁】** 国が示した本年6月からのふるさと納税返礼品などの基準を満たすため、本市では、返礼品の調達価格が寄付金額の3割以下になるよう、昨年度において寄付金額の見直しを行いました。また、国の基準に明確に適合する地場産の返礼品のみを取り扱うこととし、昨年度多い時期には約850品目あった返礼品を、現在は500品目で展開しています。ふるさと納税については、地場産品の調達だけでなく、寄付者が本市へ訪れるなど、観光や交流による経済振興に繋がる手段としても、ぜひ取り組んでいきたいと考えています。そのため、現在500品目に減った返礼品を、できれば8月をめどに約800品目に増やしたいと考えています。また、インターネットなどを活用し、納税が増える秋以降、できる限り本市のふるさと納税を情報発信したいと考えています。

